

特別賞

大震災対策賞 来るべき南海トラフ地震、首都直下地震への対策につながる優れた取り組みに贈られる賞です。

中学生部門 [三重県] 松阪市立鎌田中学校

URレジリエンス賞 被害を減らすと同時に、復旧までの時間を短くすることにより、社会に及ぼす影響を減らす「レジリエンス(縮災)」という考え方に繋がる取り組みに贈られる賞です。

- 小学生部門 [徳島県] 阿南市立橋小学校
中学生部門 [熊本県] 球磨村立球磨清流学園
高校生部門 [宮崎県] 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
大学生部門 [石川県] 金沢大学アメリカンフットボール部EVERGREEN
特支・団体部門 [静岡県] 静岡県立富士特別支援学校 高等部3年



はばタン賞 阪神・淡路大震災以降に被災した地域にエールを送るため、これら地域を対象に被災の経験と教訓から生まれた優れた活動に贈られます。

- 小学生部門 [岩手県] 釜石市立双葉小学校
中学生部門 [広島県] 呉市立横路中学校
高校生部門 [岩手県] 岩手県立大槌高等学校 復興研究会
高校生部門 [宮城県] 宮城県中新田高等学校
大学生部門 [兵庫県] 関西国際大学 学生防災士サークル KUISs BOSAI
特支・団体部門 [高知県] 高知県立盲学校



だいじょうぶ賞 安心・安全な街づくりを目指す「だいじょうぶ」キャンペーン実行委員会にちなんだ賞。防犯や街の身近な安全や、安心・安全な街づくりを目指す優れた活動に贈られます。

- 小学生部門 [岐阜県] 岐阜市立本荘小学校
小学生部門 [徳島県] 牟岐町立牟岐小学校
中学生部門 [兵庫県] 南あわじ市立沼島中学校
高校生部門 [栃木県] 栃木県立矢板高等学校 農業経営科農業技術部
高校生部門 [三重県] 三重県立紀南高等学校
大学生部門 [兵庫県] 若者防災協議会
特支・団体部門 [東京都] リソース・ネット
特支・団体部門 [三重県] 桜地区自主防災協議会 女性防災隊 桜すきんちゃん



フロンティア賞 過去に受賞がなかった地域・分野での先導的な取り組みまたは初応募の優れた取り組みに贈られる賞です。

- 小学生部門 [台湾] 雲林縣石龜國民小學
中学生部門 [大阪府] 吹田市立千里丘中学校
中学生部門 [大阪府] 茨木市立豊川中学校
中学生部門 [山口県] 光市立浅江中学校
大学生部門 [兵庫県] 神戸学院大学 blik for blik
大学生部門 [兵庫県] 神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程 西井穂 研究室
特支・団体部門 [埼玉県] 埼玉県立上尾かしの木特別支援学校

継続こそ力賞 過去数年に渡り継続的に実施された優れた取り組みに贈られる賞です。

- 小学生部門 [埼玉県] 上尾市立今泉小学校
小学生部門 [兵庫県] 洲本市立中川原小学校
中学生部門 [岩手県] 盛岡市立河南中学校
高校生部門 [福島県] 福島県立福島西高等学校家庭クラブ
高校生部門 [和歌山県] 和歌山県立熊野高等学校
特支・団体部門 [徳島県] 津田新浜地区自主防災会連絡協議会 青少年部 津田新浜防災学習倶楽部

問い合わせ先 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター事業部事業課 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 西館6階 TEL:078-262-5068 FAX:078-262-5082

令和7年度1.17 防災未来賞

ぼうさい甲子園

表彰式・発表会

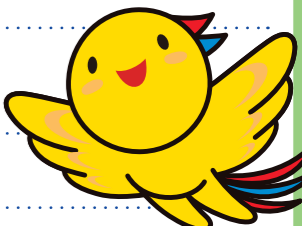


忘れない 災害の記憶 未来へつなげ

阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の驚異や生命の尊さ、ともに生きることの大切さを考える「ぼうさい教育」を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくる一助とします。児童・生徒・学生や団体が学校や地域において主体的に取り組む、「ぼうさい教育」に関する先進的な活動を顕彰します。

開催日時 令和8年1月24日(土) 13:00~16:00 会場 人と防災未来センター 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

Table with 2 columns: Time and Program. Includes Opening, Award Ceremony, Presentation, and Closing.



主催 兵庫県、毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)
後援 内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、関西広域連合、ひょうご安全の日推進県民会議
協賛 (独)都市再生機構

表彰式・発表会

受賞校・団体活動紹介



大学生部門

大阪府／関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室 **グランプリ**

「“学び愛”の防災を～「みんなのぼうさい」を目指して～」

近藤研究室は、災害情報論を専門とするゼミナールで、2014年にスタートした。地域防災や防災教育を支援するため、全国各地でメディアを活用した研究調査・実践を行っている。スローガンは「みんなのぼうさい」。こどもからお年寄りまで、あるいは、障がいのある方や難病患者さんたちと一緒に、都市部や山間集落、沿岸地域、被災地の内外などで活動を共にしている。わたしたちは、10年を超える息の長い数々のプロジェクトを通して、ただ単に防災の輪を押し広げるような取り組みでは、いざというときの力にならないことを思い知った。だから、「みんな all people」というイメージを「一人ひとり every-one」に転換して、ご縁があった人たちと学び合う関係性を築くことを大切にしている。愛を持って学び合う“学び愛”の心があれば、防災を人生の中に適切に位置付けられるものと信じている。



ラジオ番組で防災情報を提供

小学生部門

宮城県／岩沼市立玉浦小学校

「あきらめないで 助け合いの輪をつなぐ 玉浦の子」

14年前の東日本大震災で甚大な被害を受けた岩沼市玉浦地区。玉浦小学校ではこの経験を踏まえ、震災から今日まで継続して「命の大切さ」を学び続ける防災教育に力を注いでいる。年間11回の避難訓練や全学年での防災学習に加え、総合的な学習では学年ごとに防災に関する課題に取り組み、6年生はその集大成として「未来の玉浦を考えよう」に挑戦。震災を知らない子どもたちは、復興を支えた地域の方から話を聞き、「自助・共助」や「人とのつながり」をキーワードに、魅力ある街づくりを考える。また、姉妹都市・高知県南国市との交流では、防災の取り組みや考えを共有し合い、児童たちは広い視点でこれからの防災について理解を深めている。昨年度は地域と連携した「防祭」も開催し、地域ぐるみの防災意識向上にもつながっている。



多様な状況を想定した避難訓練

中学生部門

三重県／松阪市立鎌田中学校

大震災対策賞

「地域の防災リーダーを目指して」

本校では、総合的な学習の時間に「防災」をテーマに探究学習を進めている。1年生では「歴史ある松阪を災害から守ろう」、2年生では「地域みんなに役立つ防災マップを作る」、3年生では「(避難所運営ができる)地域の防災リーダーを目指そう」というテーマを設定し、人権・福祉・キャリアの3つの視点で探究している。中でも、集大成である3年生では、避難所運営ゲーム(Hinanjyo Unei Game)のリアル版、いわゆる「リアル HUG」に地域住民や小学生と一緒に取り組む体験(子どもたちは運営側と避難者側の両方を体験)を通して、自分たちが地域の防災リーダーになるために、どのような力をつけるべきかを模索し、探究を進めている。今年度は、この取り組みを始めて3年目。これまでの反省点を活かして2度のリアルHUGにチャレンジした時の様子子どもたちの学びの経過を報告する。



避難所運営ゲームの実施

高校生部門

愛媛県／ジュニア防災リーダークラブ(高校生)

「小学生からの継続教育による高校生防災リーダー育成プロジェクト」

松山防災リーダー育成センターでは、指導力と実践力溢れる高校生防災人材の育成に取り組んでいる。本プロジェクトの根幹は松山市教育委員会との連携にある。当センターと教育委員会、それと各学校が連携して小学校と中学校の防災教育の内容を決定している。小学校では基本的な防災知識について学び、中学校ではジュニア防災リーダークラブ会員として登録し、マイ・タイムライン授業などを通して地域防災の意識を持つようになる。高校生になると、意識の高い高校生に更に進んだ防災教育プログラムを用意している。各校の防災クラブ等との連携、海外の学生とのオンラインによる防災学習、被災地見学、黒潮町での防災体験学習、各高校からの推薦制による防災士養成講座受講と資格取得、最後に報告会の開催を通して、小中高の防災教育活動の集大成としている。



指導スタッフとしての訓練

特支・団体部門

千葉県／千葉県立香取特別支援学校

「地域でたくましく生きるかとりっ子の育成」

- **地域性** 学校所在地(神崎町)のほか、学区の2市2町(香取市、成田市、東庄町、神崎町)の広域防災の推進を福祉や保護者・入所施設と連携して取り組んでいる。
- **独創性** 知的障害教育における防災安全教育を、教科教育を中心としたカリキュラム・マネジメントにより実践している。学校提案型による個別避難計画作成に取り組み、特別支援学校へのダイレクト避難の仕組みづくりを進めている。
- **自主性** 命を大切に、「助けて」といえる受援力の学習を職業・キャリア教育、道徳教育、保健教育、特別活動(生徒会)、職員・保護者等合同研修など、学校の教育活動全体を通じて行っている。
- **継続性** 防災デイ(学校行事)、防災ガチャ(PTA活動)など、継続して行っている。令和6年度から防災安全コーディネーター、保健給食安全コーディネーターを校務分掌に位置付けた。



ペットボトルを利用した着衣水泳

優秀賞

小学生部門

岩手県／釜石市立釜石小学校

「自分の命を守る防災意識の醸成につなげる防災教育の深化」

昨年度、2008年から行ってきた防災教育を再考・再興した。これまでの防災教育を深化させて実践していくことが、児童や釜石という地域の未来へつながっていくものと考えている。

今年度は、釜石の地形や土地利用、多様な災害による被害想定、薄れゆく災害への意識等の現状を踏まえ、本校の防災教育を構成している「ぼく、わたしのぼうさい安全マップ」、「改訂版釜石市防災教育の手引き」、「下校時津波避難訓練」、「毎月11日の釜石ぼうさいの日」等の取り組みを家族や地域とともに実践した。

高校生部門

宮城県／宮城県気仙沼高等学校

「『東日本大震災復興プログラム』による防災教育の取り組み」

本校はH28年度スーパーグローバルハイスクールへの指定を機に、「東日本大震災復興プログラム」として、未来に備える防災・減災教育に取り組んでいる。震災のことを自分の体験として覚えている生徒はほとんどいない。年3回の防災訓練、防災士による震災伝承講座、みやぎ鎮魂の日にかかる行事の開催、「世界津波の日」高校生サミット参加など全国の高校生との交流、防災ジュニアリーダー研修会への参加などを行い、震災復興を原動力に、地域を未来へ牽引できる「地域の防災リーダー」の育成をめざしている。

特支・団体部門

宮城県／宮城県立支援学校女川高等学園

「防災教育を地域の生涯学習へ～過去の教訓と学びの関心を一体に～」

本校は「地域と共に学ぶ防災教育の充実」を目標に、生徒自身が主体的に実践する「総合防災訓練」の仕組みを確立し、「備えること」、「共に助け合うこと」の大切さを共有してきた。震災の記憶がない世代への「防災を考え続けること」の学びの仕掛け作りには、関心の持ち方を見直し、従来の「総合防災訓練」に加え、過去の教訓に触れる準備段階として、生徒同士で行う「防災企画」を新たに寄宿舎自治会で実施する。

小学生部門

徳島県／阿南市立津乃峰小学校

「世代や地域を超えてつながる、持続可能な日常としての防災教育」

本校は、H26年度より防災教育を学校教育の主軸として実践し、3年前より「学校を離れた場所でも自分の判断で安全な行動を取る」という目的とした「休日避難訓練」を実施。

今年度は地域住民主体となるよう深化させ、現実的な避難訓練になるよう学校と地域の自主防災会が協力し、世代・地域を超えてつながるまちづくりとしての防災教育を目指している。

高校生部門

青森県／下北BOUSAIネットワーク(青森県立大湊高等学校)

「学校連携での地域防災への取り組み(防災ネットワークの構築)」

下北BOUSAIネットワークは、青森県下北半島にある、大湊高校、田名部高校(全日制・定時制)、むつ工業高校、大間高校、むつ養護学校の5校が協同して取り組むネットワークである。

総合学科、進学校、専門学校、特別支援学校という様々な特徴を持つ学校が、自分たちの得意な分野や興味関心をもとに、独自の活動を展開し、被災地研修や避難所体験などの共同実施等、緩やかなつながりの中で活動している。

スローガンは「防災を日本の文化に・防災を世界の智慧に」。個々人の防災力向上を目標に取り組んでいる。

特支・団体部門

京都府／京都府立宇治支援学校

「全校でつながる防災の実践 ～気づきと行動の拡がり～」

本校では、「校内の自動販売機は災害時に使用できるのか」「廊下で右側通行が徹底されていないのは危険ではないか」といった、日常生活における安全面への声が生徒からあがり、これを受けて学校全体で環境改善が進みつつある。

小さな気づきと行動の変化は防災教育の成果であり、校内の安全文化を形づくる第一歩である。

中学生部門

岩手県／宮古市立崎山中学校

「「つながる」宮古の良さを知り、自分たちにできることをしよう!」

宮古市北部に位置する本校は、全校生徒73名の小規模校である。東日本大震災での教訓を語り継ぎ、地域の防災士や地元の高校生たちとの防災学習を行うなど、防災への取り組みも盛んである。

地震・津波に対する防災学習を継続、次世代に継承していく一方で、1961年に起きた「三陸フェーン大火」にまで学びを広げて、ふるさとの「美しい森、川、海」を守り、誰もが安心して暮らすことのできる崎山の街づくりに「私たちができること」を考え、地域のたて、よこのつながりを広げようと活動している。

大学生部門

京都府／龍谷大学政策学部 石原凌河研究室

「『一人ひとりが助かる』ための防災教育の実現」

本研究室防災教育プロジェクトでは、小学校等を対象に、延べ40校以上で防災教育出前授業を10年間継続的に実施してきた。

これまで学校の先生や地域の方々との「対話」を通じて創り上げたオーダーメイド型の防災教育授業を実施してきたが、今年度からは新たに「一人ひとりが助かる」をコンセプトに掲げ、児童「一人ひとり」が災害に真剣に向き合える授業を展開した。例として、災害時要援護者「一人ひとり」に必要な支援を考えてもらう授業等を行った。このような防災教育をこれからも推進したい。

中学生部門

宮城県／山元町立山元中学校

「自助・共助の意識を高め、組織的に本気で防災活動に取り組む」

本校は「生徒が自助・共助の考え方を身に付け、防災を通して地域に貢献できる力を育む」ため、総合的な学習の時間や教科横断的な「防災学習」のカリキュラム開発を行った。防災・減災教育を通して「本気で命を守る」という自助の意識を高めるとともに、「地域に貢献する」という共助の力を高めることもねらいとしている。また、地域と連携して防災学習に取り組むことは、生徒の防災意識だけでなく地域の防災意識の高揚にもつながっている。

大学生部門

静岡県／静岡大学教育学部 藤井基貴研究室

「教職を目指す学生を主体とした産学官連携による防災教育の推進」

本研究室では東日本大震災を契機に「考える防災」「脅さない防災」「伝える防災」を柱として活動を重ね、2024年度より「支える防災」を加えて、学生主体で包括的な取り組みを展開している。

今年度は産学官連携に重点をおき、地元企業と共同開発した防災総合アプリ「クロスゼロ」は6万5千件以上のダウンロード、「防災検定ソナクエ」は7千件以上の登録となった。これらを活用した静岡県認証プログラム「BOSAIユースアンバサダー事業」を静岡県、愛知県、宮城県で展開。製薬会社とは感染症予防の紙芝居を制作し、幼稚園、図書館、病院等に提供した。

奨励賞

グランプリ・ぼうさい大賞